

イギリス・バース研修レポート

—世界遺産都市に学ぶ—

石谷昌司

1 はじめに

イギリスのバース市は、18世紀に上流階級の温泉保養地として栄えた地域として有名で、1997年には世界遺産にも登録された世界有数の歴史的観光都市である。イギリスがまだローマ帝国の支配下であった2千年以上も前に、ローマ人がその土地の鉱泉に目をつけ、浴場を築いたのが始まりのようだ。また、バースは「イギリスの田舎町」の代名詞ともなっているコッツウォルズ地方の南部に位置しており、その最大の魅力である蜂蜜色をした石灰岩（ライムストーン）で統一された建物の美しさと壮大さは世界中の人々を魅了し続けている。かつて、上流階級の社交場として繁栄していただけあって、その建造物は他のコッツウォルズ地方のそれとは違い、一際豪華な印象を与えるものであった。この歴史ある観光地において、われわれ観光学部は、その観光資源のあり方や景観保全の重要性を学び、南房総地域に還元できる提言を見出すべく今回の研修に臨むこととした。

観光学部からバースを訪れるのは2006年に続き今回で第2回目であり、特に研修内容や成果においては更なる充実が求められた。幸いにして、大学からの多大な支援と参加学生の前向きで積極的な姿勢のおかげにより、最終的に教育の成果をしっかりと明示できる研修に仕上がったと考えている。

本研修先であるバーススパ大学（Bath Spa University、以下BSUと略。）は、本校の姉妹校であるとともに、歴史的にも学術的にもイギリス屈指の教育機関である。2005年には、全英でCentre for Excellence in Teaching and Learningの一角としても位置づけられている。また、チャールズ皇太子の所有地にキャンパスが立地していることもあり、その敷地は広大で美しい。キャンパスには、牛や羊が放牧されている光景と最先端の教育施設の両方が混在し、日本では味わえない独特の雰囲気醸し出している。講義内容においては、BSUの講師陣がしっかりとした準備のもと、語学や観光学の講義を大変丁寧に授業をしてくれたのが印象的であった。また、午後を実施されたいくつかの観光地への見学にも同行してくれ、これによって、われわれは各所の詳細を十分に学ぶことができた感謝している。

ところで、英語で「風呂」を意味する“Bath”は、「暖める」という意味をもつインド・ヨーロッパ祖語に由来するといわれており、温泉が湧き出る街ということでバース市をBathと名付けたようである。この名の由来ととおり町は歴史的な温泉地にふさわしく、伝統的な温泉建造物とその当時の状態そのままに大切に守られていることがうかがえた。私自身、今回の研修で初めてヨーロッパを訪れたわけだが、何度か訪れたことのあるアメリカやカナダの雰囲気とはまったく違う光景に感銘を受けた。

冒頭でも触れたように、研修の目的は、観光資源とその景観保全がどのように地域に根付き、また機能しているのかを主に観察することであった。この目的とともに、われわれはロンドン・バース間と東京・鴨川間における興味深い類似点にも着目していた。それは、地理的にロンドン・バース間(約185km)と東京・鴨川間(約133km)が比較的よく似ており、両区間ともに電車で片道約1時間30分で移動できる環境にあるという点である。この視点に基づき、今後、千葉県南房総地域にどのようにしてよ多くの観光客を呼べるのかを考察することも今回のテーマの一つとした。さらに、われわれが現地に行く意義を考え、現地の人々に鴨川市や千葉県のことを少しでも知ってもらおうと、事前に準備した発表を現地で披露した。また、研修後は、訪れた地域について、今度は千葉県や鴨川市の人々にバースについての発表をおこなったのである。これによって、学生は、プレゼンテーション準備のための情報収集、英語での発表内容の作成、そして英語で披露するための発音練習等、短期間に多くのスキルを鍛える機会を得たように思う。

2 事前指導について

研修内容の充実を測ることを目的とし、学生への事前知識準備のために、研修に先立ち全8回にわたる事前指導を実施した。以下は、その日時と内容である。

事前指導

実施日時	内 容
7月17日(木) 13:00-13:40	第1回事前指導 全体説明(プログラム概要と研修中の注意点等)
7月18日(金) 13:00-13:40	第2回事前指導 グループ分けと研修中の発表・アンケートその他課題について
7月22日(火) 13:00-13:40	第3回事前指導 研修地参考ビデオ1(15分)バースの地理的特徴と歴史的背景、 ロンドン市街についての概要説明
7月30日(水) 15:20-16:50	第4回事前指導 研修地参考ビデオ2(15分)温泉地利用から見る世界遺産バース、 コッツウォルズ地方の景観保全について
7月31日(木) 17:00-18:30	第5回事前指導 発表原稿作成とその役割分担・アンケート内容最終決定
9月4日(木) 12:50-13:30	第6回事前指導 出発直前ミーティング1:概要最終確認と連絡事項
9月5日(金) 13:40-15:10	第7回事前指導 出発前最終ミーティング2:発表内容チェック
9月8日(月) 11:20-12:50	最終事前指導 入国手続き、その他所注意

事前指導では、主にイギリス全土の概要と研修先であるバース、そして田園風景の広がるコッツウォルズ地方について、ビデオや文献をとおして情報収集にあたり、現地でのヒアリングや講義の際における理解度の向上を目指した。また、現地で実施する予定のアンケートや鴨川市と千葉県英語でのプレゼン作成、そしてグループに分かれて調査を進めるための役割分担等のため多くの時間を割いた。結果として、事前準備による現地での学習効果は著しく、直接説明を受ける際の理解もスムーズになったと考えられる。加えて、現地での発表においても、多少準備不足はあったものの、全体として学生一人一人が自信を持って発表していたことが見受けられた。

今後改善すべき点としては、授業期間中であつたため、主に昼休み(約40分)を利用したわけだが、学生の昼休憩を奪ってしまうだけでなく、毎回細切れで終了せざるを得なかつたため、継続した作業が必要な時に困難であつたことである。事前指導のために授業枠を設けるのは難しいことだが、事前・事後指導への特別な配慮が必要であることも事実である。

3 研修内容についての概要(研修スケジュールは、資料1参照。)

午前中は「英語」の授業と「バースの観光」に関する講義、そして午後は、バース市内を中心に、その周辺に位置する観光スポットを訪れ、各所で多くのことを学んだ。

午前の語学授業は、本研修が観光学部講義の一つである、「ホスピタリティビジネス研修・インターンシップ(海外)」というコースに位置づけられていることを考慮し、単なる英会話学習ではなく、午後の研修に常にリンクさせたものにしてもらった。これによって、学生の多くは、午前の授業で得た英語での事前知識に助けられ、午後の研修をさらに充実したものにできたようである。

午後のスタディツアーでは、かの有名なローマ大浴場(The Roman Baths)、バース・アビー(Bath Abbey)、ロイヤルクレセント(Royal Crescent)、環状巨大石群として有名なエイヴブリー古代遺跡(Avebury)、コッツウォルズ地方の南部に位置し、映画「ハリ・ポッター」の撮影場所にも選ばれたレイコック村(Lacock Village)、そして大都市ロンドン(London)などを訪れた。各所でおこなわれた研修は、すべて英語での説明であつたが、ガイドの方々からの説明はとて丁寧であり、特にレイコック村では、シニアマネージャーへの質疑応答時間を設けてもらうなど、充実した研修にすることができたように思う。ロンドンについては、バースから約200km離れていることもあり、当初訪問先として入れる否かを迷つたが、やはりこの地への視察は外したくなかつた。「せっかくイギリスまで来たのだから」という思いも当然あつたが、それよりも大都市ロンドンとバース市との観光のあり方について比較させたことが大きい。東京と鴨川の観光の違いと同じように、ロンドンとバースの観光地としての役割は大きく異なり、それを实地に学ばせることは大変重要だと考えたわけである。また、ロンドン・バース間と東京・鴨川間には、思い立てば、気軽に行けるといった地理的類似点とともに、都会に暮らすサラリーマンや退職した年配の方々、毎日の騒がしい生活から一時の安らぎを求めて訪れる場所としての共通点がある。反対に、相違点としては、一方(ロンドン・バース)はそれなりに成功をしており、もう一方(東京・鴨川)はその潜在性と比較すると成功しているとはいえない事実がある。これを比較観察するために、一日かけてロンドンを見学する日を設けたのである。

研修期間について述べれば、全体として7泊9日という期間は、バース市周辺の訪問とはいえ、観光名所をしっかりと回ってくるには多少短いように感じた。しかし、今回訪れた研修先は、地理的にみてもこの限られた時間で訪問できる最善の目的地であろうとも感じている。少なくとも学生たちは、訪れた各地で、地域と観光客が一体となり「観光ウェルネス」が実践されていることを肌で感じたようである。これを体験できただけでも研修の意義の大半は満たされたのではないかと考えている。

以下は、研修中の模様である。

(1) 語学 観光学講義 現地発表の様子



「千葉県・鴨川について」発表する学生



講義を熱心に聞く学生



語学授業の一コマ



観光学講義の一コマ

(2) バース市内研修の様子



大浴場 (The Roman Baths) を訪問。
中へ入ると 25m プールのような大浴場がある。



ロイヤルクレセント(Royal Crescent)を訪問
“Crescent”とは、英語で「三日月形」という
意味。後ろの建物はまさに三日月形である。



バース市についてガイドの方から説明 (1)



バース市についてガイドの方から説明 (2)

(3) エーヴリー 古代遺跡の様子



環状型巨大石群遺跡の前で



施設内喫茶スペースで



約縦 3m × 横 1.5m もある巨大石



風化したといわれる巨大石の一つ

(4) レイコック(コッツウォルズ地方) 現在は、ナショナルトラスト管轄下である。



映画「ハリーポッター」の撮影所の前で



シニアマネージャーへの質疑応答



レイコック村をグループで見学(1)



レイコック村をグループで見学(2)

(5) ロンドン1日研修の様子



大英博物館前で



ビッグベンの名で知られる国会議事堂



学生ガイド（バース・スパ大）と交流



トラファルガー広場で昼食

(6) 研修修了日の様子



バース・スパ大学キャンパス内で



コーディネーターのマーティン氏から
プログラム修了書の授与

4 事後指導

事後指導は、全 5回、学生の履修状況を加味し、事前指導と同様に昼休憩を利用しておこなわれた。この時間は、学生が研修を再度思い返し、頭の中の情報を整理するとともに、それを他者に伝えられるようにまとめることを目的として設定されている。この作業によって学生は、自らの記憶にそれらの情報をしっかりと根付かせると同時に、第三者に上手く伝えるための方法を考えることが要求される。したがって、発表の仕方やパワーポイントの作成には、ひと工夫もふた工夫も必要となってくるのである。また、個人レポートでは、提出後にかなり細かく校正をして返却し、再修正させてから再度提出させた。これは、読者を常に意識した書き方を念頭におく癖を身に付けさせたかったからである。

発表については、二度の機会を得た。初回は、毎年本学部キャンパスでおこなわれる「交流デイ」(地元の方々との交流の場) という意味で開催) において、一教室を借りて実施した。他のイベントと重複していたため、一般の方は少なかったが、「本番」として発表する機会を得たのはありがたかった。二回目は、大学祭 (IU フェスティバル) で他学部のゼミ生の研究発表にまぎていただく形でおこなった。観客も多く、講堂での発表とあって、学生も前回に比べて数段緊張していたようだが、しっかりとした口調で、まとめ上げた発表内容とパワーポイントを披露していた。この経験は、今後の自信として必ず彼らの向上心へとつながっていきたくらうと感じた。

以下は、事後指導の日程とその内容である。

事後指導

実施日時	内 容
9月22日(月) 12:50-13:30	第1回事後指導 個人レポートとグループレポートについての説明 ・パース発表会についてとその役割分担とデータの整理と準備
9月26日(金) 12:50-13:30	第2回事後指導 ・パワーポイントを作成する上での注意事項 各グループでパワーポイント作成についての準備と資料収集
9月29日(月) 12:50-13:30	第3回事後指導 ・パワーポイントの手直し ・プレゼンテーションの準備とポスター手直し
10月1日(水) 12:50-13:30	第4回事後指導 ・パワーポイントの手直し ・プレゼンテーションの準備とポスター手直し
10月3日(金) 12:50-13:30	第5回事後指導 ・パワーポイントを用いての研修発表(予行演習) 個人レポート締切日 ・プレゼンテーションの準備(最終)とポスター手直し(最終)

5 研修を終えて

研修を終えてまず思うことは、観光学を学ぶわれわれにとって、世界遺産都市でその観光資源の活用法を直に学ぶことができたことは、大変貴重で有意義な経験であったということである。また、本研修をとおして、今後南房総地域が観光地として発展していくためのいくつかのヒントを見出すことができた。これらのいくつかは、研修後におこなわれた発表において提言し、個人レポートの中でも多くの学生がそれらに触れていた。

調査の一手段として現地でおこなったアンケートは、「イギリスの人たちは、われわれの国・市のことをどれくらい知っているのだろうか?」という単純な疑問を直接現地の人々に尋ね、その結果を鴨川市をはじめ千葉県の方々に知らせたいという気持ちから実施することにした。本研修の期間が現地大学の学期外であったことから、一般の学生の姿はほとんど見えず、協力してくれる人々を探すのが想像以上に困難だった。そのため、20代と70代以上の年齢層からアンケートをとることができず、対象者が偏ってしまったことが今後の課題として残った。それでも、ホストファミリー・教員スタッフ・学食のスタッフなど、交流のとれた人には極力アンケートをお願いし、結果34名の人たちからアンケートを回収することができたことには大変感謝している。(アンケート質問項目は資料2を参照。)

学生にとって、アンケート結果の分析(学生によるアンケート分析結果の一部は資料3)や発表用の原稿(資料4参照)・パワーポイントの準備や個人レポート作成等は骨の折れる作業であったであろうが、その分、この研修で得た知識と経験が一人ひとりの頭にしっかりと刻みこまれたと確信している。

2009年度は、ハンガリー(姉妹校ブダペスト商科大学)の研修を予定している。今後も観光学部は「実践をとおして学ぶ」学部として、充実した国内外研修プログラムをより多くの在學生とこれから入学してくる学生に提供したいと考えている。学生たちにはこれらの機会を積極的に活用し、各人の自己実現の手立てとして役立ててもらいたい。また、地域に根付く教育機関として、これらからも地元鴨川市の方々との協力のもとに、活発かつ実りある教育の機会を提供していきたいと考えている。最後に、引き続き本学部への変わらぬご支援とご指導をお願いし、2008年度イギリス・パース研修レポートの結びとしたい。

資料1:研修日程

月 日	午前内容	午後内容
9/9(火)	成田空港出発 11:00pm Flight: VS901	・ヒースロー空港到着 15:30pm バスでバース市内(コーチパーク)へ移動 各自ホームステイ先へ移動
9/10(水)	・オリエンテーション ・ツリズムレクチャー 1のための語学学習 ・最終日のプレゼンテーション準備 午後の研修準備	・スタディツアー 1 ・バース市内研修: バース寺院、ロイヤルクレセント、ローマ浴場など
9/11(木)	前日の研修の復習 ・ツリズムレクチャー 1 「バースとイングランド南西部の観光」 ・ツリズムレクチャー 1の語学サポート 午後の研修準備	・スタディツアー 2 ・エーヴベリーの古代遺跡(ストーンサークル)研修
9/12(金)	南房総 鴨川市についての発表 前日の研修の復習 ・ツリズムレクチャー 2のための語学学習 最終日のプレゼンテーション準備 午後の研修準備	・スタディツアー 3 ・レイコック寺院とレイコック村(コッツウォルズ) ナショナルトラスト職員による全体説明
9/13(土)	スタディツアー 4: ロンドン1日研修	
9/14(日)	各自ホストファミリー と過ごす	
9/15(月)	前回の研修の復習 ・ツリズムレクチャー 2 「ウェルネス産業について」 ・ツリズムレクチャー 2の語学サポート 午後の研修発表についての準備	午後の研修内容についてのグループ発表 ・プログラム修了証授与とフェアウェルパーティー
9/16(火)	・バースからヒースロー国際空港へ バースを8:00amに出発	・ヒースロー空港から成田空港へ出発 13:00pm Flight: VS900
9/17(水)	成田空港到着 9:00am	

学生は、ホームステイ、 は、研修中の発表。

Questionnaire about Japan

Please circle your answers.

Q1: Have you ever been to Japan? Yes. No.

* If yes,

1. How many times? _____ 2. Where? _____ 3. How long? _____
4. What was your impression like? _____

Q2: Would you like to visit Japan (again)? Yes. No.

* If yes,

1. Where? _____ Why? _____
2. How long? _____

* If no, please indicate your reason.

1. too far 2. too expensive 3. language issue 4. not attractive
5. other _____

Q3: What is your image of Japan? (mark as many as you like)

1. rich country 2. beautiful 3. kind 4. industrial 5. economic
6. peaceful 7. culturally rich 8. technological 9. natural
10. other _____

Q4: What is your image of Japanese tourists? (mark 3)

1. polite 2. loud / noisy 3. good tippers 4. bad tippers
5. good English 6. bad English 7. Other _____

Q5. Please tell us about several Japanese major sites you know.

Q6. If you know anything about Japanese culture, please indicate below.

Q7. If you know anything about Japan, please indicate below.

Q8. Do you know a prefecture called "Chiba" in Japan? Yes. No.

Q9. Do you know a city called "Kamogawa" in Japan? Yes. No.

* If yes, either at Q8 or Q9, please circle it (them) on the map below.



[http:// ja.wikipedia.org](http://ja.wikipedia.org) (8/ 21/ 2008)

Q10. What place(es) in your country would you recommend Japanese people to visit the most? (please indicate the reasons.)

Q11. If you feel comfortable, could you please provide us with some information about you?

Nationality: British Other _____

Sex: Male Female

Age: 0-9 10-19 20-29 30-39 40-49 50-59 60-above

Thank you very much for your precious time!

Presentation about Chiba prefecture & Southern Peninsula

Today, we would like to talk a little about our prefecture, Chiba and our city, Kamogawa. Before we start our presentation, does anyone know about Chiba? Have you ever been to Japan? This is a map of Japan. Can anyone tell me where Tokyo is? Tokyo is here and Chiba is here and our city Kamogawa is around here.

Chiba prefecture is located south of Tokyo. Here on the map and it consists of 27 cities with a population of approximately 6 million people. One of the features of this prefecture is that it has the Narita International Airport, the biggest international airport in Japan, in the northeastern part of the prefecture. The airport receives almost 35 million travelers every year and is considered one of the most significant airports in Japan.

Chiba can be divided into several parts in terms of its geographical features. The northwestern part of Chiba especially plays an important role as a “bed-town” where a number of people live and commute to the greater Tokyo area. Some by train and some by car.

For example, one area called “Makuhari” is about 40 minutes away from Tokyo and a lot of business people reside in this area. This city has been developed since the 1960 s as an artificial area designed to be a “second” Tokyo. In a last decade, the housing costs around the area have dramatically increased, but offers easy access to Tokyo, Narita Airport and the rest of Chiba prefecture.

In the northeastern part of Chiba prefecture stated above near Tokyo, there is also Tokyo Disney Land and Tokyo Disney Sea, which are the most well known amusement parks all over Japan. In fact, its existence has a major impact on tourism and the number of tourists visiting Chiba prefecture.

With these reasons, the north of Chiba is quite busy and can be seen as a suburb of Tokyo. Whereas the southeastern part of Chiba, which is mountainous and is surrounded by hills and the Pacific Ocean is a more relaxing atmosphere where people can enjoy nature, fishing, surfing, strawberry and flower picking.

The city in which our university is located is called “Kamogawa City”. The population of Kamogawa city is about 35,000 people and it is famous for seafood and beautiful beaches. Because the city is facing the ocean, it is one of the best places for surfing. A number of surfers come to our city to enjoy great waves all year around.

Thanks to its location, Kamogawa is warmer in winter than northern Chiba. Therefore, some

people have their second houses or vacation homes in the area to avoid the cold weather. If you go down to the south, you could see beautiful flowers even in February, which normally no flowers are around in the season in Tokyo area.

In terms of tourism, Kamogawa is mainly a summer destination. In addition, most people visiting Kamogawa go back to their homes without staying over night, doing a one-day trip or “hi-gaeri” 日帰り in Japanese. This tells us that: 1. there are not enough attractive sightseeing spots which lead them to stay over or, 2. people are too busy, or 3. the cost of accommodations, like much of Japan, is too expensive.

Therefore, we are trying to come up with good ideas to solve the issues so that Kamogawa will be busy throughout a year. The study of tourism is very broad and sometimes difficult to grasp, but, we enjoy studying it and discussing current issues to find a good solution, which meets the needs of the traveler, the local businesses, and the community at large.

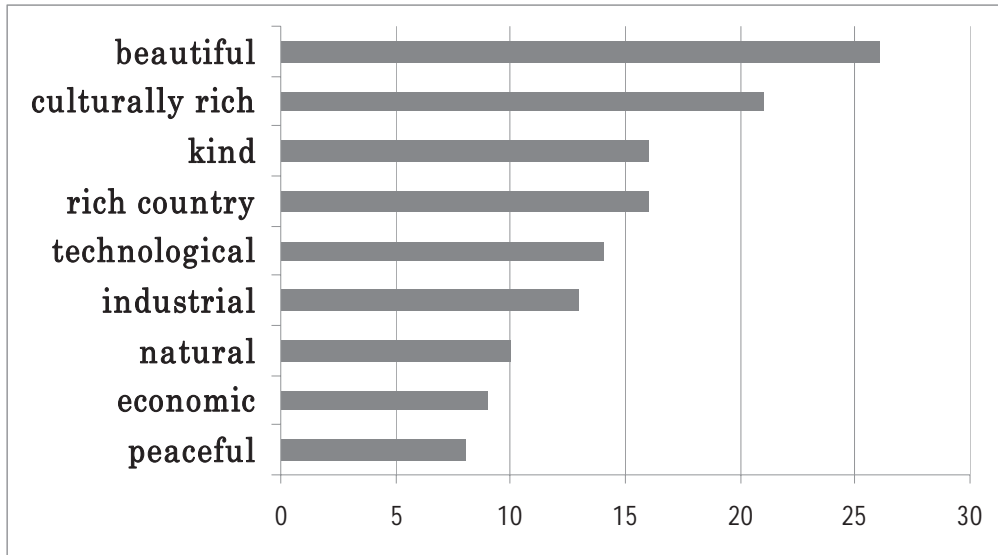
We are hoping to bring back some useful ideas from a successful city like Bath or Cotswolds to Kamogawa for the future s improvements and its promising tourism industry. By the way, we have been very impressed by its beautiful scenery and long history of England so far. We hope that you can enjoy our culture and historical places next time you visit Japan.

Thank you very much for your attention!!

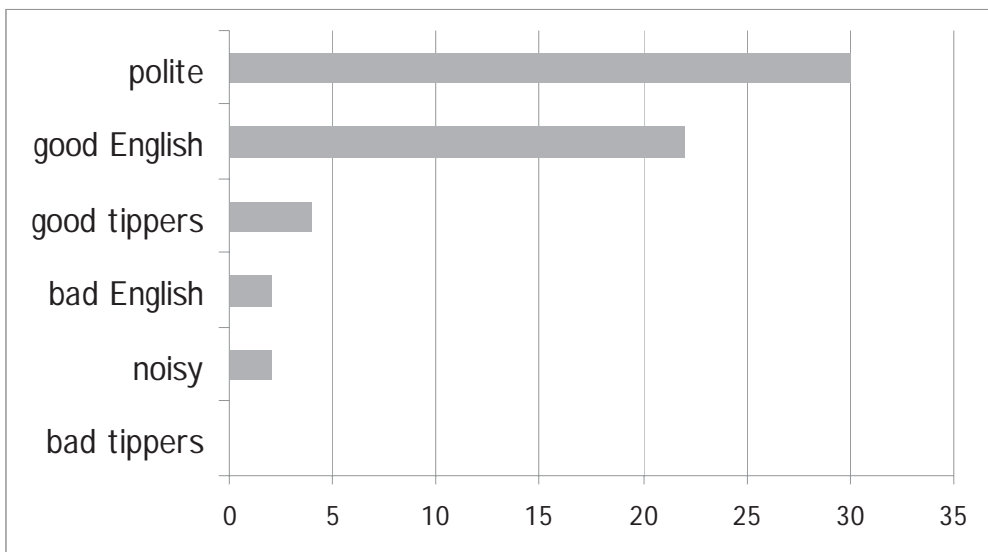
資料4 学生によるアンケート分析結果の一部

アンケート対象者年齢層：

10 - 19 歳 3 名(男 1 人/ 女 1 人/ 不明 1 人)、20 - 29 歳 0 名、30 - 39 歳 3 名(男 1 人/ 女 1 人/ 不明 1 人)、40 - 49 歳 :14 名(男 4 人/ 女 7 人/ 不明 3 人)、50 - 59 歳 4 名(男 2 人/ 女 2 人)、60 - 69 歳 9 名(男 5 人/ 女 4 人)、70 歳以上 0 名



(アンケート質問項目 3. What s your image of Japan?)



(アンケート質問項目 4. What s your image of Japanese tourists?)

【その他の質問と回答】

アンケート質問項目 1 .Have you ever been to Japan? ... Yes-0, No-34

アンケート質問項目 2 .Would you like to visit Japan? ... Yes-25, No-4, 無回答 5

アンケート質問項目 6 .If you know anything about Japanese culture ,please indicate. ...

相撲 芸者 将軍 箸 着物 味噌汁 折り紙 侍 豆腐 寿司 Rice fields(田んぼ)

アンケート質問項目 7 .If you know anything about Japan , please indicate below. ...

International companies / Very crowded / Technology / Nice cars

アンケート質問項目 8 .Do you know a prefecture called “Chiba” in Japan? ...

Yes-0, No-34

アンケート質問項目 9 .Do you know a city called ”Kamogawa” in Japan? ...

Yes-0, No-34

参考文献

阿部泉、辻丸純一 『旅名人ブックス - コッツウォルズ 西イングランド』 日経 BP 社 2001

『地球の歩き方』編集室 『地球の歩き方 - イギリス』 (株)ダイヤモンド・ビッグ社 2004

英国観光庁公式ホームページ <http://www.visitbritain.jp/> 2009.1.3 参照

バーススパ大学公式ホームページ <http://www.bathspa.ac.uk/> 2009.1.3 参照

ローマン・バス博物館公式ホームページ <http://www.romanbaths.co.uk/> 2009.1.3 参照

ウィキペディア 「バース(イギリス)」 <http://ja.wikipedia.org/wiki> 2009.1.3 参照

Cunliffe, B. (1986), *The City of Bath*. Alan Sutton Publishing Ltd., U.K.

A Brief Report on the Study Tour in Bath, England

– Learn from the World Heritage City –

Masashi Ishitani

Abstract

The purpose of this short reflection paper is to provide with information about a study tour conducted in the world heritage city of Bath England, held from September 9th to 17th 2008. The information in this paper is for future reference of any on-site practical studies. This study tour has been conducted as a “Hospitality Business Training & Internship” and is offered in the Faculty of Tourism at Josai International University, Chiba Japan. In addition, it is important to note that this program has been developed in collaboration with our sister university in England, Bath Spa University. Bath Spa University played a significant role in creating language classes and also in selecting valuable sites for our visit.

The main focus of this program is to draw students attention to the significance of how the world heritage has successfully been preserved by the local government cooperating with its people. Other minor aims are to develop the international awareness of students while using and improving their English skills. I will therefore mainly discuss what we have done to achieve the above learning goals as well as what I have felt as a tour leader during this tour. Through this program, I believe that all students learned how this city has become prosperous as one of the major tourist spots in England, and students also learned valuable lessons for our city, Kamogawa, to be a successful one in the field of Japanese Tourism in the future.